

貸与端末機の機能等変更申請書

付加価値米の生産拡大による地域再生

京都府 南丹市農業委員会 地域再生グループ (主な活動場所：南丹市美山町鶴ヶ岡)

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

- 農業委員： 18人 (5人)
- 農地利用最適化推進委員： 29人 (5人)
- 事務局職員： 4人
- 市町村行政との連携状況：

協議した政策案等を市長へ提出する意見書に反映させている。

※ () 内の人数は地域再生グループの人数です。



都市住民を対象に食味会開催(R2.11.29 南丹市美山町にて)



2 地区の特徴、状況、課題

○**市の概要**: 京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。

農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、地域資源を活用しながら特産物の開発や育成することが重要な課題である。

○地区の概要・課題

南丹市北部の中山間地域であり、後継者不足、耕作放棄地の増加、地域コミュニティの衰退が課題である。

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 平成31年2月にグループを発足。
- 話し合いは基本的に月に1回(総会の日)に行われている。
- 地域資源を生かした特産品を開発することで、その地域を活気づけるためのきっかけを作り出すことに寄与することを目指している。
- 地域再生に取り組む実践地を選定し、その地元の代表の方と意見交換を実施。
- 地域の方も一緒に協議し、方向性を決めている。

4 成果(京力農場プランの目標実現に向けた取組内容)

- 「おいしい米づくり研究会」という団体を立ち上げ、特別栽培米による米のブランド化「京都一の清流 孫に食べさせたい美山のコシヒカリ」の生産拡大を図り、農家所得の向上と農地の保全を行う。

※事例候補(地区連絡会議の単位が望ましい)の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください